

# あきたの 地域医療通信

2011年1月 第9号

発行／秋田県健康福祉部医務薬事課  
医師確保対策室



**平**成22年11月から、秋田県北秋田市にある北秋田市民病院へ副院長として秋田に戻ってこられた、平田温先生を紹介いたします。

## 宮崎から北秋田市民病院へ

副院長(内科・神経内科) 平田 温

### (1)宮崎と秋田

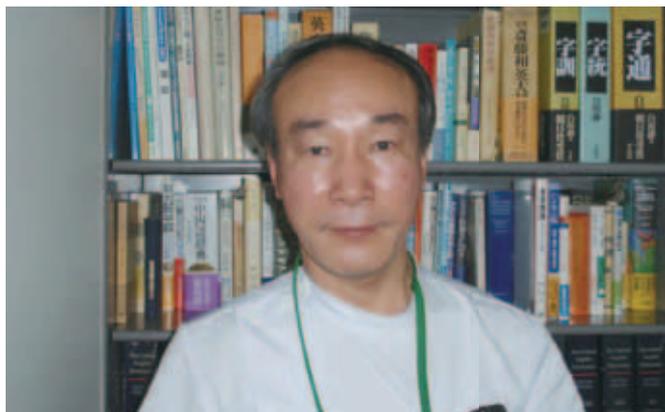
宮崎市の「市民の森病院」(市民の森公園に面した民間病院)から3年半ぶりに秋田へ戻りました。国会議員秘書の本間直人氏はじめJA秋田厚生連医療従事者確保対策室の東海林・鎌田両氏、畏友荏原順一秋田大学病院院長など多くの方々に助けられて2010年10月から北秋田市民病院で診療を始めています。

宮崎も県立病院の累積赤字、医師不足、医療過疎では秋田県に引けを取りません。特に神経内科は絶滅危惧種といわれて久しく、中でも宮崎県北部で2009年に神経内科医がいなくなり県南部の宮崎市に向かって「難病難民」が発生している状況は秋田県そっくりです。宮崎県は県立3病院を統括する病院局長を新設し、人事を含む強

力な対策を始めました。当の甲斐病院局長の知遇を得て深刻な状況に如何に立ち向かうか、何度も話をする機会がありました。結論は簡単ではありませんが、核になる人材が必要だとの認識は一致したと思います。私も神経内科担当の中里教授から協力を依頼され宮崎大学医学部非常勤講師として学生に講義し、市民の森病院の臨床クラークシップでもささやかなお手伝いをしましたが、若い(神経内科)医師をどうやって育てるか困難の解消には未だ遠い実情です。

### (2)北秋田市民病院のいま

北秋田市民病院は北秋田市が設立し秋田県厚生連が運営する公設民営の新しいタイプの病院で、2010年4月にオープンしたのはご承知の通りです。かつて福祉の町として全国に知られた鷹巣町ですが、合併して現在の北秋田市民病院設立に至る経緯は私が宮崎にいたこともあってまだ十分理解出来ていません。小田実流に言うと設立に至る大状況はさておき、市民病院の現状という小状況はそれでもこの3ヶ月で少し分かってきました。最近の自治体病院に共通の高い建設コストと寒冷地向きと思えない構造。医師不足などから320床の予定が177床でスタートし半分の病棟が閉鎖されている赤字必至の厳しい現実。大館能代空港と北欧の杜公園に隣接した立地の「良



副院長 平田 温 先生

さ」と通院に不便な「遠さ」。既存の病院を「整理・集中」したことの得失など枚挙に暇がありませんが、地域医療の抱える問題点を鋭く反映していると言えるかもしれません。ここへ来て患者さんや家族、福祉スタッフの方々の声をお聞きして気づいたことがあります。それは入院・外来を問わず「医療サービス」の質を真剣に問うていること、とりわけ「人の対応」に鋭敏であることです。別の言葉で言えば「大事なのは建物ではなくて人」。「人」は医師のみならず病院で働く全ての人たちのことでしょう。これは改めて気づくものではなくて当たり前のことですが、その「当たり前」を貫くことの困難さを逆に認識させられたように感じます。『医師には謙遜の徳が最も重要』とは偉大なオスラーの言葉ではなかったでしょうか。

### (3)北秋田市民病院のこれから

市の要請もあってこの4月から療養型病床を40床開設し私が担当する予定です。厚生連としても初めての試みなので県内の療養型病床を持つ病院に教を乞いながら勉強しています。幸い当院には歯科・口腔外科医が2名在籍していますので、口腔ケアで誤嚥性肺炎防止を目指す先進病床に育てたいと準備を始めたところです。

宮崎では『宮崎をホスピスに』をかけ声にNPOの人たちの看取りや聞き書き、歯科医の口腔ケアを学びました。このつながりから訪問看護のエキスパート、日赤秋田短大の中村順子准教授と宮崎で知り合いました。医療は医師と患者

で成り立っているのでは勿論なく、家族やケアにかかわる多くの人たちの協力が不可欠です。訪問看護は患者の生活の現場で仕事することから、療養型病床と深いつながりがあることを中村さんから教わりました。医療関係者はじめ多職種の方々と連携しながら仕事を進めるつもりです。

年末12月に秋田組合総合病院の研修医が1名、1ヶ月間の「地域医療」研修に来ました。神経内科の私が担当し、この病院の長短すべて隠さず見てもらいました。県北部唯一の神経内科専門医として頭痛・てんかん・認知症・脳卒中・神経変性疾患の診療も教育も広げたい、これがもう一つのささやかな願いです。大北医報に書きましたが、宮崎と秋田では山歩きで遭遇する猪と熊ほど違っても、柳田国男の「後狩詞記(宮崎)」と「遠野物語(東北)」に通底しあう文化があるように、二つを結びつける接点を診療の中で探したいと思います。



## レジデントフォーラム in AKITA

Joint Case Conference for YOUNG DOCTORS in AKITA City

平成19年度より、秋田市内の5つの臨床研修病院で、合同研修医カンファレンスを行っています。年3回各病院が持ち回りで企画し、各病院が1例ずつ症例を持ち寄った合同カンファレンスと指導医によるミニレクチャーを軸にした構成ですが、年1回は外部講師を招聘して特別講演を行っており、研修医のスキルアップと親睦を深めるとともに、指導医同士の情報交換の機会としても好評な研修会となっています。平成22年11月には第6回レジデントフォーラム(通算では10回)が、秋田赤十字病院の当番開催で、「救急外来で経験した貴重な症例」と題した各病院からの症例紹介と、宮崎大学医学部附属病院長の池ノ上克先生の特別講演などが行われました。次回は平成23年4月23日、秋田組合総合病院が当番で開催予定、現在新採用の研修医向けの特別講演を軸に企画中です。

(問い合わせ:代表世話人 秋田組合総合病院副院長 齊藤 崇まで)

#### 【秋田市内の臨床研修病院】

・中通総合病院・市立秋田総合病院・秋田赤十字病院・秋田大学医学部附属病院・厚生連秋田組合総合病院

A photograph of a conference room with several people seated around a long table. A presentation screen is visible at the front of the room. The room has a modern, clean aesthetic with recessed lighting in the ceiling.

合同カンファレンス

A photograph showing a group of people in a well-lit room, possibly a lounge or social area. They are engaged in conversations and some are holding drinks. The atmosphere appears to be relaxed and social.

フォーラム終了後の懇親会

# レジデント スキルアップ キャンプ2010+ 医学生セミナー

秋田県内の初期研修医(主として1年目)を対象にして行われる、レジデントスキルアップキャンプが平成22年10月22日(金)～10月23日(土)に開催されました。

平成19年度から始まったこの研修会も、今回で4回目を数え、県内14の臨床研修病院の研修医はほぼ100%参加しています。

今回も恒例の福井大学寺澤秀一教授による「救急をどう研修するか?」のワークショップと、1病院1症例発表のケースカンファレンスの他、新たな試みとして、全員参加型のロールプレースタイルのワークショップを取り入れました。

ケースカンファレンスでは、病歴と検査結果まで呈示したところで、3択のクイズを挟み、その後診断と経過を発表するという形にし、症例を考えながら参加できたことで、参加者の満足度も高い結果となりました。

全員参加型ワークショップでは、「指導医と研修医」「主治医とガン患者」を短時間でシナリオを作り替え、会場の笑いを誘うロールプレイを熱演してもらいました。

また、昨年に引き続き医学生を対象にしたスキルアップセミナーも、10月23日(土)開催しました。レジデントスキルアップキャンプの聴講が参加者に好評だったことから、今年もCBT対策の集中セミナーと併せて、ケースカンファレンスの聴講もプログラムに入れ、秋田大学及び札幌医科大学の医学生に参加していただきました。今回も講師陣は秋田大学の全面協力を得て、「腎・血液・膠原病」「小児科」「消化器内科」「外科」「循環器科」の充実したセミナーとなりました。来年度も開催予定ですので、より多くの医学生の皆さんの参加をお待ちしています。



ワークショップでのグループ討論中



「指導医と研修医」を熱演中



くじ引きで一緒になった先生方とカンパイ



医学生スキルアップセミナー「消化器内科」

## 雄勝中央病院 トピックス ～病院から婚活を～

雄勝中央病院では、少子高齢化で元気をなくしている地域の活性化のためには若者の出会いの場を作ることが重要と考え、病院長の発案により、病院主催の納涼祭に、市役所と消防署の職員23人を招待しました。女性職員が多い病院と男性主体の市役所、消防署との交流は大いに盛り上がったようです。商工会議所や農協との連携による農業青年との出会いの場など続編も計画されているようです。



H22.7月 雄勝中央病院納涼祭

# 指導医メッセージ



中通総合病院

内科総括科長

浜井 啓子



9番バッターから女医さん達へのメッセージです。女医という言葉は看護師が女性で占めていた昨今の名残と思われる。男医という言葉は広辞苑には載ってません。女医と言われても仕事内容は男性と同じです。唯一の違いは育児で生じる家事労働の増加です。医者の仕事と家庭生活の両立は非常に困難ですが、多くの女医がこの問題を何とかクリアしてフルタイムで仕事を続けています。頑張っただけで仕事をすれば誰かが必ず助けてくれます。でも、できれば研修期間での妊娠出産は避けた方がいいというのが経験からの提言です。これまで8人の指導医が研修期間がいかに今後の仕事にとって大事であるかを力

説してきました。鉄は熱いうちに打たなければ使い物になりません。熱い研修医期間がこれからの自分の生き方を決定する時間です。でも、こんな医者生活は耐えられないと感じている人もいるはず。ルールに乗せられることはありません。

臨床分野に限らず病理学や法医学、公衆衛生学等の基礎医学に進む道もあります。研究生活も楽しいものです。私の同級生で生きている人と話するのはきついと言って法医学の道に進んだ人もいます。2年間でどういう道を歩みどういう人生を送りたいのかを見定めて下さい。腎学会東北支部では女医の会を立ち上げ育児と仕事をどう両立させていくのかをメインテーマに語り合っています。時間はかかりますが、女医に限らず働く女性が同僚の男性の負担を最小限にして仕事を続けるにはどう社会を変えなければならないかを考えています。最後に、一番大切なことは研修期間に多くの患者と出会い、多くの先輩医と出会い、一生の宝とすることです。私自身は研修医時代に苦楽を共にした同僚達とのメールで心がなごみ、25年前に面倒をかけた指導医に助言を貰い、つたない診療にも関わらず研修医時代に患者さん達から貰った感謝の言葉を糧に仕事をしています。皆さんも多くの出会いをして下さい。次回は研修ローテートには組み込まれていない臨床分野の先生からのメッセージを送りたいと思います。



あきたの  
病院紹介 vol.9

## 由利組合総合病院

〒015-8511 由利本荘市川口字家後38  
Tel 0184-27-1200 (代表)

由利組合総合病院は秋田県の西南、由利本荘市・にかほ市(対象人口11万2千人)の医療の中核を担っており、緊急性を要する救急から、ありふれた生活習慣病や増え続ける癌などの悪性疾患まで幅広い診療を行っております。他医療機関・施設と連携を図りながら、救急・急性期・在宅と包括的医療を継続して行い、保健予防活動にも積極的に取り組んでいます。さらに、臨床研修指定病院、救急告示病院、がん診療連携拠点病院、災害拠点病院やへき地医療拠点病院をはじめとする数多くの医療機能を有しております。

2年間の臨床研修は、将来の専門領域にかかわらず必要な基本的臨床能力や技術を涵養する期間であると同時に、「医師としての義務と礼儀」を体得する貴重な期間でもあります。当院では、多くの経験豊かな指導医が研修を充実させようと頑張っており、医療に携わる多職種のスタッフ同士もお互いに積極的に協力し支え合うため、新任研修医でも安心して研修に取り組むことができます。

また、平成22年10月より、育児をしながら働きやすい環境を作ることを目的とし、由利組合総合病院院内保育所が開設されました。勤務者のシフトに合わせ、夜間保育、一時保育が可能です。専門のスタッフが24時間対応する為、安心して仕事に臨む事ができます。



## 臨床研修病院合同説明会の開催

東北厚生局が主催する、臨床研修病院合同説明会が、下記の日程で開催されます。秋田県の14臨床研修病院も出展予定ですので、医学生の皆様のご参加をお待ちしています。

期 日▶平成23年3月20日(日) 12:00~16:00

会 場▶仙台サンプラザホール 仙台市宮城野区榴岡5-11-1 JR榴岡駅前

出展予定施設▶東北管内の基幹型臨床研修病院(大学含84施設) 東北管内以外の基幹型臨床研修病院(8病院)

参加費▶参加者は無料(開催場所までの交通費は参加者負担)東北管内各大学医学部(東北大学除)と会場のバス運行があります。



昨年の病院合同説明会

… お問い合わせ先 …

E-mail : [ishikakuho@pref.akita.lg.jp](mailto:ishikakuho@pref.akita.lg.jp) Tel. 018-860-1410

秋田県健康福祉部医務薬事課 医師確保対策室 〒010-8570 秋田市山王4丁目1番1号

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。